

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>本専攻修士課程では、本学ので定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、62単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士設計または修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、修士（景観建築学）の学位を授与します。</p>		<p>本専攻修士課程は、建築から自然との共生、景観映像情報技術までをも対象とする景観建築学のより高度かつ実践的な学びを、建築と公園、都市などの広域の住環境をともに対象とした建築・景観設計として統合する、スタジオ教育を中心とした教育課程を編成します。ディプロマ・ポリシーを修了時に達成できるよう、インターンシップ科目、演習科目、講義科目、実習科目からなり、62単位を修了要件とする教育課程を編成します。これにより、一級建築士の資格を得るために必要な実務経験2年を、修了時に満たす教育課程となります。</p>	<p>本専攻修士課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた者を求めます。</p>	
A. 高い知性	<p>高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築・景観的事象を理解するための広範な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」の統合により問題を解決する実践的能力を修得している。</p>	<p>インターンシップ科目は、一級建築士の資格を得るために必要な実務経験要件を、修士課程修了時に満たす上で必要不可欠な科目です。本研究科内に設置した一級建築士事務所「建築・都市デザインスタジオ」における実務実習や、国内外の建築設計事務所や建設現場での設計・監理の実務などに参加します。また学生の興味、関心や進路に応じ、建築よりもより幅広い、景観設計・施工の実務に関わるインターンシップにも参加できます。</p> <p>演習科目は、建築設計と景観設計を統合的に教育するスタジオ型の建築・景観設計教育です。インターンシップ科目とともに、カリキュラムの中核をなします。1年次の総合演習では学部より高度かつ実践的な建築設計課題に取り組みますが、これは実務経験の一部を構成するインターンシップ関連科目（演習・実験・実習）として認められます。最終学期には修士設計または修士論文に取り組みます。</p> <p>講義科目は、インターンシップや建築実務において必要不可欠な専門知識や実践的能力を身につけるインターンシップ関連科目（講義）と、景観映像情報技術や景観設計にかかわるより高度で最先端の専門知識に触れることができる講義科目によって構成します。</p> <p>実習科目（フィールドワーク）は、他の科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、同時に自ら新しい問題を発見するための学外実習科目です。</p> <p>インターンシップ科目、演習科目においては教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、講義科目においては講義、小テスト、実習科目においては建築物や庭園、町並み、工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポートといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、修了年次に提出する修士設計または修士論文、及びその発表をもつて、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生するために必要な、大学建築学科卒業レベルの基礎的知識、能力を有し、かつ自然と共生する社会に貢献できる、より高度な建築・景観設計技術者及び自立した研究者を目指す者を受け入れます。</p>	
	A-1			<p>語学や諸学の基礎学力の修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる実践的能力を修得している。</p>
	A-2			<p>構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって空間的に構成する実践的能力を修得している。</p>
	A-3			<p>機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって最適な空間を構成する実践的能力を修得している。</p>
A-4	<p>コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる実践的能力を修得している。</p>			
B. 善美な情操	<p>「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美」的、「歴史」的、「文化」的価値を理解し、自然との共生の視点から地域の伝統的文化を創生できる実践的能力を修得している。</p>			
	B-1			<p>基礎的造形能力を培っている。</p>
	B-2	<p>歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する実践的知識を修得し価値観を身に付けている。</p>		
C. 高雅な徳性	<p>地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、自然との共生の視点を持って自律的に行動する「人格」を身に付けている。</p>			
	C			<p>社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を身に付け、自律的活動ができる職人としての自覚を形成している。</p>
D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	<p>「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を身に付け、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得している。</p>			
	D-1			<p>「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的、実践的に実現する能力を修得している。</p>
	D-2	<p>様々な専門家、技術者との共同の重要性を理解し、チームワークで建築をつくりこむことのできる能力を修得している。</p>		